

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年6月13日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2024年6月6日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	イギリス
留学先大学	イーストアングリア大学(日本語名) University of East Anglia(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2023年9月～2024年6月
留学先大学で在籍した学年	なし年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: アート、メディア、アメリカンスタディ 現地言語での名称: Arts, Media and American studies  <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月末～12 月 2 学期: 1 月末～5 月 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	16,872
創立年	1963

## 留学費用

留学費用項目	現地通貨 (ポンド)	日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費	5200	990000 円	University village に住んでいた
食費		500000 円	外食をすると高い
図書費		0 円	
学用品費		50000 円	
携帯・インターネット費		20000 円	
現地交通費		40000 円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		0 円	
被服費		80000 円	
医療費		0 円	
保険費		250000 円	形態：明治大学と VISA 申請で強制の NHS
渡航旅費		240000 円	
ビザ申請費		100000 円	
雑費		100000 円	
その他		400000 円	5 か国分の旅行、航空券、ホテル代
その他		0 円	
合計		2770000 円	

## 渡航関連

渡航経路
<b>往路 出発地:</b> 成田 <b>目的地:</b> ロンドンヒースロー <b>経由地:</b> WAW ポーランド
<b>復路 出発地:</b> ロンドンヒースロー <b>目的地:</b> 成田 <b>経由地:</b> ドーハ、カタール
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社:  料金:
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: ポーランド航空   料金: 140000  復路 航空会社: カタール航空   料金: 110000                   ∴ 合計: 250000
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:    )
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: google flight)
<input type="checkbox"/> その他(    )
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舍等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: University Village) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数    )
3) 共有部分
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
学校の accommodation finder で概要を見た後、学校から申請フォームが届き、第7候補くらい入力した。
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
私は学校の象徴的な建物である Ziggurat に住む予定であったが、渡航直前に閉鎖してしまったので Village に移った。フラットメイトは会ったらあいさつや軽い会話をする程度で、キッチンはきれいに使ってくれた。だが、友達の中には汚いキッチンや騒音に悩まされている人もいた。そのことから寮を移動する友達もいた。現地生の一年生はフラットのつながりがあり、フラットでクラブなどに行っていた人もいたが、日本人含め留学生がその輪に入ることは難しそうだった。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

学校があるブリッジはかなり治安がいいのであまり防犯対策はしていなかった。だが、旅行先や London は警戒していた。友達には財布や携帯をすられた子もいた。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

学校や寮ではある程度安定した Wi-fi があった。だが、いくつかの会社の Sim では街に行くと全くつながらないことがあった。おすすめは EE の Sim。学校の Shop やコンビニでも売っていた。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

口座を開けることはせず、日本の口座と日本で作ったクレジットカードを持って行った。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

イギリスはカード社会なので絶対タッチ決済のカードか Apple Pay で使えるカードを持っていくべき。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
120 単位		<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Media Representation		メディアの表象
科目設置学部・研究科	School of arts, media and american studies	
履修期間	Term 1	
単位数	20	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60 分が 2 回	
担当教授	George Mckay	
授業内容	様々なグループや人種などがメディアにどのように表象されてきたのかを学ぶ	
試験・課題等	中間と期末のレポートがある	
感想を自由記入	日本では聞いたことのない西洋のメディアによって作り出される偏見(ブロンド女性は頭が悪いなど)が学べてとても面白かった。ほかの生徒と話し合う際は、イギリスの生徒が親しんでいるメディアを知らなかったのが大変だった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Analysing film		映画の分析
科目設置学部・研究科	Arts, media and American studies	
履修期間	term1	
単位数	20	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60 分が 4 回	
担当教授	Karina Aveyard	
授業内容	映画の基礎を学び、分析するすべを身に着ける	
試験・課題等	期末レポートと毎週のジャーナル	
感想を自由記入	映画はどのような要素で構成されているのかを学び、毎週のスクリーニングで 1 本映画を見て実践的に分析した。今までなじみがない分野だったが基礎から学ぶことができよかった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Advanced English	
科目設置学部・研究科	Language and communication studies
履修期間	Term1
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Bettina Pfeiffer
授業内容	他の生徒とのディスカッションを通して upper intermediate のレベルからさらに上を目指す。
試験・課題等	group podcast、期末レポート、weekly journal
感想を自由記入	英語を第二言語として学ぶ生徒たちで話し合う機会が多く、英語でのディスカッションのスキルが向上したと思う。発言の機会も多く、英語力に対して自信をつけることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Theorising media and culture	
科目設置学部・研究科	Arts, Media and American studies
履修期間	Term2
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が2回
担当教授	George Mckay
授業内容	メディアに関するセオリー(構造主義やフォーコー、ポスト植民地主義など)を学んだ。
試験・課題等	20分のグループでのプレゼンテーションの録音(期末)
感想を自由記入	ただでさえ複雑な理論を英語で学習することはかなり難しかった。ポスト植民地主義に関するプレゼンテーションをしたが、自分が東洋の代表になっているような気分がした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
digital media; concepts, technologies and cultures	
科目設置学部・研究科	Arts, media and American studies
履修期間	Term2
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が2回
担当教授	Matthew Sillence
授業内容	ソーシャルメディアやそのアルゴリズム、シリコンバレーについての話など、デジタルメディアに関する基礎的な情報を教わった
試験・課題等	中間と期末のレポート
感想を自由記入	先生がとてもやさしく、ディスカッションの際も留学生の私に気を使ってくれたと思う。アルゴリズムと人種差別に関する話が興味深かった。デジタルメディアはこれからさらに存在感を増すと思うので取っておいてよかったと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to world languages and cultures	
科目設置学部・研究科	Language and communication studies
履修期間	Term2
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Isabella Reichl
授業内容	言語とそれに付随する文化について学んだ。毎週違った先生が講義をした。たとえば各言語の礼儀正しさや詩の翻訳、またはスポーツを取り巻く英語翻訳の現状などを学んだ。
試験・課題等	中間、期末のエッセイと課題図書についてのレポート
感想を自由記入	毎週違う先生が全く違うトピックについて話してくれたため飽きなかった。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職   進学   未定   その他:1年休学後就職

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。  
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

私は留学中に自分の納得のいく就職活動はできないと思い、帰国後1年休学し就職活動をすることに決めました。留学に来ている人の中には就活を両立させている人も多かったですが、かなり大変そうでした。ロンキャリアに行っていた子もいましたが、内定をもらうのはかなり厳しいそうです。  
就活を今始めて感じたことは、留学で何かイベントに参加するなどして具体的に話せるエピソードを作っておくとよいということです。留学をしている人は大勢いるので難しいですが何か差別化ができれば強いと感じました。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	留学の相談をし始める
	4月～7月	必要な英語要件達成のための勉強
	8月～9月	IELTS 受験
	10月～12月	留学申し込み、面接
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	留学準備、ビザ取得
	8月～9月	留学開始
	10月～12月	12月クリスマス休暇
留学/帰国年	1月～3月	1月期末試験
	4月～7月	5月期末試験、6月帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

世界は広いのに日本の一部の環境しか体験しないのはもったいないと思い、実際に外国で学びながら暮らすことができる協定校留学をしようと決断しました。アメリカの大学と迷いましたが、イギリスの国民性、音楽や文化などを加味していった際にイギリスが自分には合っているのではないかと思い、イギリスのイーストアングリア大学に決めました。イギリス人は自分が悪くないのに sorry とよく言い、ネガティブな礼儀正しさなどが日本とよく似ていると感じました。

イギリス滞在中最もいやだったのは円安と物価上昇です。外食で普通のレストランで普通に食べても 6000 円程度します。もちろん安い店もありますが、基本は自炊をしないと生きていけないと思います。また私は旅行もしたかったので、格安航空や格安ホテルなどでかなり節約をしました。

イーストアングリア大学は自分が思っていたより田舎で、周りは自然でいっぱいです。欲しいものがあるときはバスに30分乗って町に行く必要があります。最初は田舎なのが嫌でしたが Norwich の町は小さくてもかわいくてだんだん好きになりました。治安もとてもよく、日本と Norwich の治安を比べてもそこまで変わらないと感じました。老後に住みたいくなるような町でした。Cafe33と Bidly's が可愛くておいしいのでとてもお勧めします。

大学は緑が多く、開けている印象です。建物自体はコンクリートのダンジョンのようでした。大学の近くには芝生と大きな湖があって、晴れてあったかい日には多くの人がピクニックをします。バーやクラブもあり、週末やイベントの際はにぎわっていました。

学生は様々な国からきている人がいますが、イギリス人がやはり一番多かったです。ですが留学生はほかの留学生と、イギリス人はイギリス人とグループを作っている印象がありました。年齢などにかかわらず学びに来ている人が多く、授業には多種多様な人がいたのが良かったです。交友関係について、授業では最初に隣になった人と仲良くなりました。最初に話しかけることが重要だと思います。留学生同士だと限られた期間で多くの人と交流しようとしている人が多いので、友達を作りやすいと思います。また Student Union(SU)のサイトでは様々なイベントを見ることができるので、そこで興味があるイベントに行き交友関係を広げました。お散歩のイベントやアート系のイベント、スポーツ系などさまざまなものがあります。また日本ソサエティ(サークルのようなもの)があり、そこでは日本文化に興味のある現地生徒と仲良くなりました。寮の人々とはあいさつ程度の仲でしたが、トラブルもなかったので良好な関係であったと思います。

留学を終えて、行ってみなければわからなかったことがたくさんあると改めて感じました。留学をしなければ後悔すると思うなら、するべきです。応援しています！